

コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2016. 4. 19 小西

第104回 『ワントラム錠100mg』

ファイザー 伊藤ちさとさん

参加者：小西、野口、根井、近藤、加藤、高柳、前田、加納、渡辺、畠山、小平、吉岡

慢性疼痛とは、疾患の治療に要すると期待される期間を超えて持続する痛みと定義される。遅延する痛み自体が大きな問題となり、痛みを慢性的に抱えることによって、不安・抑うつ状態・行動意欲の低下・不眠などの精神・心理的症状を伴うこともある。このことが痛みの程度を更に憎悪・複雑化させるとともに、日常生活動作や生活の質の低下につながってしまうことがある。基本的治療はNSAIDsやアセトアミノフェンだが、効果不十分の場合はワントラムのようなオピオイド鎮痛剤や抗てんかん薬・抗うつ薬など鎮痛補助薬も使用される。

【効能・効果】

非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記における鎮痛

疼痛を伴う各種癌

慢性疼痛

【用法用量】

通常、成人にはトラマドール塩酸塩として100～300mgを1日1回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。ただし、1日400mgを超えないこととする。

【特徴】

- ・ トラマドール塩酸塩の徐放性製剤である。即放性を持つ周辺部分(Tmax 1時間)と徐放性を持つ中心部分(Tmax 4時間)の2層構造。周辺のトラマドールが速やかに血中濃度を上昇させ、中心部分の放出制御技術により、安定した血中濃度を維持することができる。
- ・ 1日1回投与でトラマールカプセルと同等の血中濃度推移を示す。
- ・ オピオイド作用及びモノアミン再取り込み阻害作用によって鎮痛効果を発揮する非麻薬性鎮痛剤。

【副作用】

- ・ がん疼痛を対象としたトラマドール塩酸塩カプセルから本剤に切り替えた臨床試験における安全性評価対象例115例中、副作用は45例(39.1%)に認められた。主なものは便秘(12.2%)悪心(10.4%)および嘔吐(6.1%)。
- ・ 慢性疼痛を対象とした安全性評価対象例646例中、副作用は585例(90.6%)に認められた。主なものは便秘(61.9%)悪心(51.9%)傾眠(28.2%)嘔吐(22.6%)浮腫性めまい(18.4%)口渇(6.5%)食欲減退(5.7%)頭痛(5%)。

【考察】

日々の投薬で多くの患者様と接するが、慢性的な疼痛で悩んでいる方は非常に多いと感じる。NSAIDsだけでは痛みのコントロールがついていないことが多く、上行性痛覚伝達系と下行性抑制系の両方に効果があり麻薬ほど強力ではないが依存性なども少ないとされる弱オピオイドを併用することは、とても有用であると考えられる。

中でもワントラムは1日1回で24時間効果が持続するので、服用回数が少なく済み、お年寄りでもコンプライアンスを保ちやすいのが利点である。しかしながら、初期用量においてトラマドールとして100mg摂取してしまうため、便秘や悪心などの副作用発現が多いのが不安要素である。

また、患者様によってはトラマルやトラムセットなどを複数回に分けて服用することで安心感を得て(プラセボ効果も含めて)、疼痛コントロールができている方もいると考えられるので、必ずしも1日1回服用が良いとは言い切れないとも感じる。近隣医療機関では、最近ワントラム錠の処方が始まったばかりで、まだまだ患者様からの生の情報が少ないので、情報収集して今後の指導に活かしていきたい。

【質問事項】

Q1：トラムセット配合錠とワントラムの鎮痛効果の強さの比較は？

A1：トラムセット2錠≒ワントラム錠100mg1錠

Q2：トラムセットに比べて副作用が多くない？

A2：トラムセット配合錠1錠にはトラマドールとして37.5mg、ワントラム錠1錠にはトラマドールとして100mg入っているため、初期の服用量が多くなるため、副作用の発現頻度が高くなる可能性がある。

Q3：服用するならいつがよいか？

A3：痛みで夜眠れない人なども多いため、夜の服用が効果的という患者様が多い。

Q4：いつから長期処方できるか？

A4：2016年6月1日より長期投与可能。

Q5：リウマチにも使えるのか？

A5：使用可能。